

報告日 平成 28 年 2 月

学校名 宮城教育大学附属幼稚園

## カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 参加感想

- ・ 大変分かりやすいお話でした。ありがとうございました。小学校でも企画してほしい内容でした。また先生のお話をお聞きする機会があることを願っています。
- ・ 子どもへの声掛け等、気をつけているつもりでしたが、まだまだ深みがあるのだな、と感じました。ありがとうございました。
- ・ 用事がないのに「お母さん・・・」と言っていたのは不安（小学校にあがる）？つながり、ぬくもりを感じたいから、抱っこしてにこにこでいられるように心掛けようと思った。5年後・10年後にどんな言葉・顔を思い出すか、前向きになれるような言葉掛けを日々出来たらと感じました。発達障害について身近に知っている人物を取り上げ話が聞きやすかったです。沢山の資料を準備していただき、植木田先生ありがとうございました。ゆっくり読みたいと思います。
- ・ 以前障害児にかかわる仕事をしていたので、特別支援教育についての講演や研修会には、数多く出席し、学んできましたが、今回の植木田先生のお話は、大変分かりやすく、具体的な例をあげてお話くださり、興味深く面白かったです。重度の自閉症の子と関わったことがありましたが、いくら一生懸命になっても普通の子のような成長がみられず、状態も良くなったり、悪くなったりするので、大変根気強く精神力が必要と感じました。先生のお話にありました「安定感」を与える支援について、もう少しお話を伺いたいと思います。是非機会がありましたら教えていただきたいと思います。
- ・ 「不安、不満に負けないチカラ」について我が子との接し方を改めて反省しました。声掛けだけではなく、親の表情や態度も敏感に感じているはずの子どもたちのことを考えて、常に冷静でいられる母親であろうと思いました。
- ・ 発達障害、自閉症スペクトラムの子どもについて、文字が読める、数字や時計が読めるようになり、親としての接し方が楽になることがある反面、集団の中での問題がより目だってくることで、親もその都度、子ども同様成長していくのだと思いました。
- ・ 発達障害という言葉は最近よく耳にしますが、どういったものが理解していませんでした。今日の講演会はとても自分のためになりました。途中、子どものお使いの映像があったり、子育ての具体的な話があったり、とても聞きやすく、分かりやすく、楽しかったです。
- ・ お話が具体的に分かりやすく、いろいろ考えさせられました。余裕をもって子どもに接すること、子どもの思いをくみとることは、簡単なことではないなと思いました。ありがとうございました。
- ・ 発達障害という言葉は知っていましたが、具体的にどのような障害であるのかということは、今回のご講演を聞いて初めて理解することができました。お話の中にあった、「不安・不満に負けない力」を育てるのは、子どもと接する時にとても大切なのだと感じました。
- ・ 自分に必要な4つのチカラのお話の中で、“体力”と“知力”と“意欲”だけではダメで、不安や不満に負けないチカラが大事で、心の中で「一人じゃない！誰かと繋がっている」という思いが大事、それが自信へと繋がり自立へと繋がるということが学べました。それらには“～しなさい！”“何でできないの？”という言い方はNGで“やればできるよ”“笑顔で接する”ということを家族で意識して取り組んでいかないと、改めて思いました。
- ・ 先生のお話、大変分かりやすく、自分の言動や行動に置き換えて考えさせられました。目先のことにとらわれがちな毎日ですが、子どもが社会に出て如何に生きていくか。最終目標はそこではないか、とつくづく思いました。「自らの目と耳で見聞きし学び考える子ども」。何事でも自ら出来るわが子になってほしいと切に思いました。是非またご講演を伺えましたら幸いです。ありがとうございました。
- ・ 「発達障害のある子どもの理解」という事でしたが、自分の子育てにおいてもとてもプラスになるお話が聞けました。障害という言葉は重いけれど、子どもたちが互いに分かり合えたり、配慮したりして行けるよう親としてもきちんと勉強できて良かったと思います。
- ・ 発達障害を抱える子どもたちが、生きづらさを感じていることに悲しみを感じました。すべての人々がインクルージョン（人と共に生きる）な世界になってほしいものです。ありがとうございました。
- ・ 子どもにとっての物のとらえ方、大人からの言葉掛けの違いで子ども自身の生きやすさが変わるのだと思いました。親としての心のゆとりをもった子育てができれば、と思いました。
- ・ 発達障害をもつお子さんへの理解を少しでも深められたのではと思っております。障害の有無に関わらず、子どもへの対応を余裕をもって、接していきたい思いました。
- ・ 今回の講演をお聞きし、障害のある子どもについて深く理解することができました。障害といっても個人差が大きく、社会ではなかなか理解してもらえない子どもや大人の方も多いかと思えます。そういう方々が生きやすい世の中になることを切に

願うとともに、きちんと私自身が理解をしたり、勉強をすることが大切だと思いました。ありがとうございました。

- ・ 発達障害について大変勉強になりました。自分の子どもとのかかわり方についても一度立ち止まってじっくり見つめてみたいと思いました。まだまだ、お話をお聞きしたいと思いました。是非、もう一度機会をつくっていただきたいです。
- ・ 発達障害とは何かという認識しかありませんでしたので今回の講演をお聞きしていろいろと考えさせられました。子どもの心に目を向けることの大切さを考えながら子育てをしていきたいです。
- ・ 毎日の生活の中で親の考えを押し付けがちになってしまうことが多く、子どもには子どもの言い分があることに気付かされました。これから少しゆったりとした子育てを心掛けたいと思います。
- ・ とても勉強になるお話をありがとうございました。障害についての知識と理解が深まりました。
- ・ とても分かりやすく、聞きやすいお話でした。具体的な例を含め、発達障害の子どもたちがどの程度生きにくいかがよく分かりました。
- ・ もっと講演をお聞きしたいと思うくらい、興味をひかれる内容でした。また是非、企画していただきたいです。
- ・ 具体例をあげてのお話でとても分かりやすかったです。子どもの問いかけに余裕をもって対応できるよう心掛けたいと思いました。“勉強は20年、生きるのは60年”の言葉が印象的でした。ありがとうございました。
- ・ 発達障害に限らず、子育てにおいても通じると思いました。先生のお話をお聞きして、様々な事を考えさせられ、とても有意義な内容でした。
- ・ 一人でおつかいの映像を例にして説明してくださり分かりやすかったです。発達障害の子どもは自分のことを理解して分かってくれる誰かがいるということが大事だと知りました。
- ・ 今まで聞いた発達障害の講座の中で、一番内容が分かりやすかったです。障害があるなしに係わらず、子どもと接するときどんな事が重要なのかという事が良く分かりました。10年後の子どもの姿を考えながら、できるかぎり余裕をもった子育てをしていきたいと思ひます。
- ・ 発達障害について体系的に理解が出来てよかった。発達障害の方がどのような事に困っているのかについて、理解が深められた。発達障害の方の行動を「翻訳」することが難しそうですが、相手を理解しようとする心掛けが大切だと思いました。先生が一生懸命お話して下さり、情熱を感じました。
- ・ 今回、発達障害を理解することにより、「安全感・安心感」の保持の大切さがとても良く分かりました。つい周りの子どもと比べてしまったりと、余裕をなくしていた自分に気付かされ、もっと子どもの話に耳を傾け、あせらずゆっくり子どもの目線で一緒に立ち止まって考える時間を大事にしていこうと思いました。ステキな講演でした。ありがとうございました。
- ・ 大変勉強になる講演会でした。今回、「軽度」発達障害という言葉は、援助が必要ないという響きになるため、もう使われていない言葉であると初めて知りました。生きにくい思いの本人、見守る保護者、学校生活で係わる先生や子どもたち、それぞれの立場で改めて理解を深めていき、共に社会で生きている仲間であるという意識をもてればいいなと思いました。また、大人になってから、仕事をする、生活をする時になど、社会生活を営んでいく時に、必要な力もたくさんあると思ひます。学校内だけでなく、社会全体の理解も何より必要だと思ひました。今後どんどん知られていくといいなと思ひます。発達障害について理解を深めていく第一歩の日になったと思ひます。連続講座で先生のお話をお聞きしたいくらいです。本当にどうもありがとうございました。

提出日 平成 28 年 2 月

学校名 宮城教育大学附属幼稚園

学年

# カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 参加感想



活動に参加しての感想

# カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 実施報告書

報告日	平成 28 年 2 月
学校名	宮城教育大学附属幼稚園
PTA 会長名	佐藤 直美

実施概要	実施活動名	カンガルーシップ活動ネイバーサポートプロジェクト植木田潤先生講演会
	実施日時	平成 27 年 12 月 15 日 (火)
	実施場所	宮城教育大学附属小学校多目的室 2
	実施目的	附属校園の保護者が“発達障がいについて”学び理解を深める
	実施内容	宮城教育大学准教授 植木田潤先生の講演を聞く
	実施方法	幼稚園 PTA が主催で講演会を開催する
	参加人数	59 人

報告事項	内容	<p>宮城教育大学准教授でありご専門は発達障害学、特別支援教育士スーパーバイザーでもいらっしゃる植木田潤先生の講演を聞きました。</p> <p>テーマは『発達障がいのある子どもの理解』です。一言で発達障害といっても ADHD、自閉症スペクトラムなど様々な言葉が使われ、ほとんどの人が部分的に当てはまることが多い為、定型発達と発達障害の間に明確な線引きはなく判断が難しいそうです。特に普通学級に在籍している発達障がいのある子どもは、『やれるのにやらない』とか『わかっているやっている』などと誤解されてしまいがちです。しかし実際には、目に見えるものしか理解出来なかったり、人と経験を共有することが難しい、といった『生きづらさ』を抱えているので、周りにいる支援者は『困った子』から『困っている子』へと視点を転換させてサポートしていくことが大切だそうです。少しでも出来たらとにかく褒めることが大切で、発達障がいを抱える子どものケアには、“家庭で得られる安心感と自己肯定感が不可欠である”，といった言葉が印象的でした。我が子に求めるばかりでは無く、親の視点を変えて見る必要があるだと子育てのヒントをいただきました。</p>
	結果	<p>幼稚園の保護者だけではなく、小学校の保護者の方にも参加していただきました。当日の参加人数は 59 人でした。講演後に行ったアンケートでは、『子育ての具体的な内容があり、とても分かりやすかった』、『ぜひ高学年くらいの子どもたちにも聞かせたい内容でした』や『今後も継続して植木田先生の講演を聞き続けたい』といった感想をいただき大変好評でした。</p>
	所感	<p>普段から幼稚園に来て子どもたちの様子を見て下さっている先生ですので、講演依頼も快く受けていただき、大変ありがたく思いました。また、幼稚園だけではなく、小学校からも保護者の方に参加していただき、今回の講演内容の関心の高さを感じました。先生は 11 ページに及ぶたくさんの資料をご用意して下さいました。資料を人数分用意するのに時間を要しましたが、その分、参加出来なかった保護者の方に後日資料をお渡ししたり園内で閲覧出来るようにした事でより多くの方に理解を深めて貰えたと思います。</p> <p>この企画をしてとても良かったと思います。助成金をいただくことで外部から先生をお招きして、このような素晴らしい講演会を開催することが出来ました。ありがとうございました。</p>

添付書類

収支決算書、参加感想（保護者）、写真